

サンタ・アナ・フリーウェイ(5号線)を南東に下りてアナハイムへ ここはオトナのヴァケーションランドだ

ミッキー・マウス、白雪姫、ダンボなど、幼い頃にどれほど胸を躍らせてディズニー映画を見たことだろう——その楽しかった夢の世界がそのまま現実に生きているのがここ、ディズニーランドだ。ディズニーランドは遊園地というにはあまりにも大きく、楽しく、時間がたつのを忘れさせる。子供たちよりもオトナの方が楽しんでいるレジャー・ランドだ。

ディズニーランドはメイン・ストリートU.S.A.というショッピング&パレード・



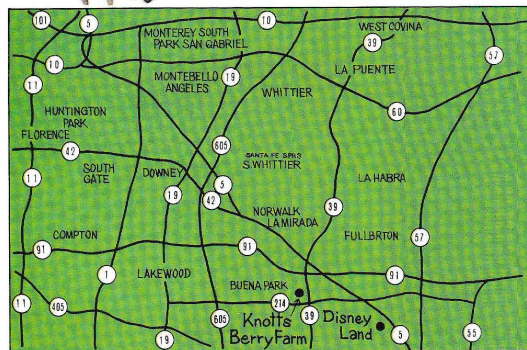
↑甘いアイスクリーム



↑国を走る乗り物の一つ



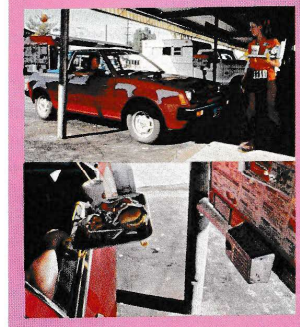
↑これがマーク・トゥエーン



ストリートを中心に、五つの国とひとつのスクエアで構成されている。ジャングル探険が楽しい冒険の国、カリブ海、海賊が現れるニュー・オルリンズ、カンパニー・ジャングル、ボリーが売りのクマの王国、開拓の国ではマッターホルン・ボブスレーが楽しめる。そしていま、ディズニーランドで一番脚光を浴びているのが未来の国。ここで未知との遭遇、宇宙への旅を経験するのだ。人数がまとまれば、日本語のガイドが案内してくれる。

コーク&バーガー。これがアメリカ式ランチ・メニュー

指定の場所に駐車し、オーダーすると腰に釣り銭入れをつけた強そうな女の子が運んでくれる。車内が広いとダイニング・ルームにもなるのだ。



↑駐車場からチケット売り場まで運んでくれます



↑1500台も駐車できる遊園地より大きい駐車場



↑世界中に普及した「気ちがいティー・パーティ」

ナッツ・ベリー・ファームではチキン・ディナーをおすすめします ここは映画でみた楽しい西部劇の世界だ

ロサンジェルスから約20マイル、ディズニーランドの少し手前にあるナッツ・ベリー・ファームは、20世紀のはじめにナッツ一家のイチゴ農園としてスタートした。ロサンジェルス市の人口

↑入場料は約6ドル。増加、市の発展とともに、売り上げも増加し、カリフォルニアのイチゴ王と呼ばれるようになる。子供の大好きなナッツ一家の人たちは子供たちのために楽しく何が学べることが出来る施設を作ろう、というこ



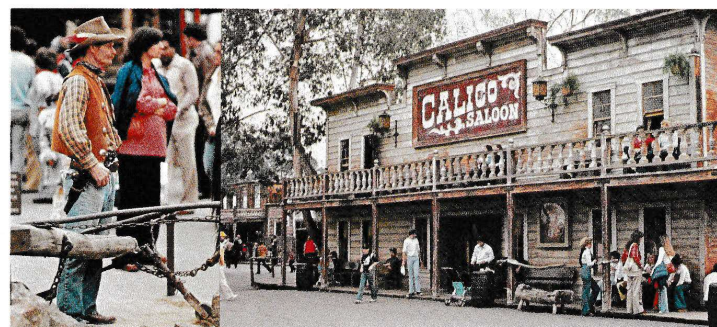
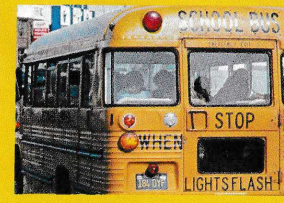
とてできたのが、このナッツ・ベリー・ファームだ。200 エーカーもの土地に西部開拓時代の街を作り、ここを訪れる人たちは西部開拓時代にもどって楽しむことが出来るのだ。



↑ナッツ・ベリー・ファームの入り口にある看板

スクール・バスの黄色いライトから目を離すな!

スクール・バスの黄色いライトが点滅している時は、学童が乗り降りしている時なので必ず止まること。この規則はアメリカの道交法の中で、最も厳しいルールの一つ。



↑わずか1世紀ちょっと前、ゴールド・ラッシュに湧く西部の姿を楽しみながら味わうことができるのだ



↑SFのケーブルカーにもある



↑西部の女?と並んで記念撮影

思わず顔がひきつってしまう 迫力満点のコークスクリュウ

2回転宙返りをするコークスクリュウはナッツ・ベリー・ファームの新しい名物。

ちょっと恐いけれど乗ってみるといい。インディアンや荒くれガンマンと記念撮影をしよう。撮影後はチップを忘れないように。農業でできたイチゴのジャムはおみやげに最適。

↑馬専用のトレーラーを引いて遊園地を訪れる人たち

↑乗馬を楽しむ女の子



1ミリでも窓を大きく、 1ミリでもビラーは細く

大きい窓と高い天井、内側に補強材が入っている剛性が高く細いビラー。安全で風景がでかく見える。走ってみると、そのことがもっとよく実感できるんだ。「ミラージュ爽快!」

